

実践報告・資料

コロナ禍における遠隔授業とプレゼンテーションの試み

The Trial of distance class and presentation under the COVID-19 pandemic

奈良県立医科大学医学部看護学科

森兼 真理

Mari Morikane

Faculty of Nursing, School of Medicine, Nara Medical University

I. はじめに

コロナ感染症の感染拡大に伴い本学でも遠隔授業を取入れ 2 年が経過した。母性看護学各論の授業も 2020 年度前期の遠隔授業のスタイルは講義が中心であったが、後期より学生によるプレゼンテーションを取入れた。2020 年 3 月に行われた文部科学省の調査によると「オンライン授業の悪かった点」の一つに「質問等双方向のやりとりの機会が少ない、対面授業より理解しにくい」があった。このことを少しでも解消するためにプレゼンテーションを取入れ学習意欲を刺激することが重要と考えたからである。この試みを学習意欲のデザインについて述べた J.M.ケラーの ARCS モデルを用いて考察したので報告する。

キーワード:遠隔授業、プレゼンテーション、ARCS モデル

用語の定義:本報告で用いるプレゼンテーションとは、主にプレゼンテーションソフトを用いて課題に関する自己の考えを発表することである

II. 授業の準備と実際

1. 準備

遠隔授業で用いるソフトウェアは本学で推奨されている Microsoft Teams (以下チームズ) である。プレゼンテーションの目的は母性看護学各論の「周産期にある女性や家族の健康支援や育児支援に関する情報を根

拠に基づいて説明ができる」である。テーマは産後の母児の健康や育児に関する内容で、学生自身が関心あるものとしている。1 学年 85 人を A~D の 4 グループに分け各グループは、21~22 人で構成している。資料は、①テーマ、②テーマを選んだ理由、③テーマに関して調べたこと、④自分の考えとしてパワーポイントは 5 枚以内である。資料は事前に学内の web システムのレポート提出 Box に提出させる。

2. 授業の進め方

授業のスケジュールは図 1 の通りである。プレゼンテーションは前半 AB グループ、後半 CD グループをそれぞれ 15 分間ずつとし、待機中に学生はレビュークイズに取り組みさせた。レビュークイズは、前週の授業内容の復習問題、過去の国家試験問題などを提示している。プレゼンテーション終了後には学生に解答してもらうこととしている。なお遠隔授業資料は対面授業の際にまとめて配布するため学生は前もってスケジュールやレビュークイズの内容を知ることができるので予習も可能である。

発表の際には、教員がチームズの共有画面にプレゼンテーション資料を映し、発表者はビデオ画面をオンにして顔を出して発表する(図 2)。発表時間は 1 人 3 分である。共有画面の操作を教員が行うのは、学生の通信負荷を少なくし操作時間のロスを少なくするためである。1 人の発表をグループ全員で聴いた後、プレゼンテーションに対するフィ

ードバックを学生に行わせている。1人が口頭でフィードバックを行い、残りの5人がチャットに記載する(図3)。これをグループ内で繰り返し3題の発表とフィードバックを行う。フィードバックの状況から出席を確認することが可能である。

3. 学生の反応

授業終了時のアンケートより「自分の関心あるテーマを選んで内容を深められた」「他の学生の発表を聞いて勉強になった」あるいは「もっと資料を見やすくすればよかった」などの感想があり、プレゼンテーションへの関心がわかる。

Ⅲ. 考察

授業に学生のプレゼンテーションを取入れた目的は、遠隔授業での双方向のやり取りが少なく受け身になりがちな学生の学習意欲を刺激することである。ARCSモデルについて鈴木(2015)は「人の意欲的な側面を、特に学習意欲の文脈において素早く概観し、4つの領域それぞれにおいて意欲を刺激・保持するための方略をつくりだすこと」と述べている。4つの領域とはARCSモデルの頭文字をとって「注意、関連性、自信、満足感」である。このモデルを用いてプレゼンテーションによる学習の効果とねらいを考察した。

1. 注意(attention)について

学生には授業ガイダンスでプレゼンテーションは評価対象となることを伝えている。テーマは自己の関心に沿って選択することから学習への好奇心を刺激する。またプレゼンテーションを聴いている学生は、単に聴いているだけではなく、フィードバックを行わなければならないことからプレゼンテーションに集中して聴いている。チャットのフィードバックには「〇〇さんへのフィードバックです。興味深く聴きました。私が興味を持ったのは・・・です。」などとコメントし、参加への意識づけになると考えられた。

2. 関連性(relevance)について

プレゼンテーションテーマは母性看護学各論援助論Ⅰでは妊娠に関する身体的心理的側面、出産準備など、母性看護学援助論Ⅱでは産後の身体変化や育児支援、家族支援などである。学生は年齢的に結婚や出産を考えることは発達課題として自己に引き付けて考えることができる。テーマは、親から聞いている妊娠や出産、育児経験を反映したもの、あるいは近年の少子化社会における育児不安、産後うつ病、父親の育児参加など多岐にわたりいずれもテーマと自己の関連性を考えて取り組んでいた。

3. 自信(confidence)について

資料と発表時間の制限の中で学生は資料の見やすさ、収集した情報と根拠の提示、自己の考えをまとめるうえで、様々な工夫してプレゼンテーションに臨んでいる。また発表に伴う責任感とフィードバックを受けることで発表後には達成感が得られ自信につながるのではないかと考えられた。

4. 満足感(satisfaction)

上記3の自信と同様、発表の達成感とフィードバックを得ることで、内적および外的な報酬による満足感が得られると考えた。さらに学びたいという動機付けにつながる事が重要であると考えた。

Ⅳ. 評価と課題

遠隔授業におけるプレゼンテーションは学生が単に講義を聴講するだけでなく双方向のやり取りの機会として有効であると考えた。特に自信や満足感は学生の主体的な参加があつて得られるものではないだろうか。このことから遠隔授業におけるプレゼンテーションはコロナ禍において在宅で孤独になりがちな学生の学習意欲につながる方略の一つと考える。一方課題として通信状況のトラブルがある。「Wi-fiの接続に問題がありグループに入るのが遅れた」「通信状況が悪く授業

に戻るのに時間がかかった」などという声がチャットで届く。発表時間内にグループに入れず、授業終了後に該当するグループだけ時間を延長して行ったことがあった。遠隔授業の環境は学内も学生自身も徐々に整ってきていると考えるが不測の事態は起きるので今後も状況に応じた対応が必要である。今後も学生が主体的に参加できるよう工夫を重ねていきたいと考える。

本報告に関して開示すべき利益相反事項はない。

参考文献

石谷 康人.ARCS モデルに基づくワークシート法の開発と評価. 高地工科大学紀要. 17(1). 2020.

J.M.ケラー. 鈴木克明監訳. 学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクションデザイン. 北大路書房. 2015

文部科学省新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査(結果)

https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf
(accessed 2022.5.22)

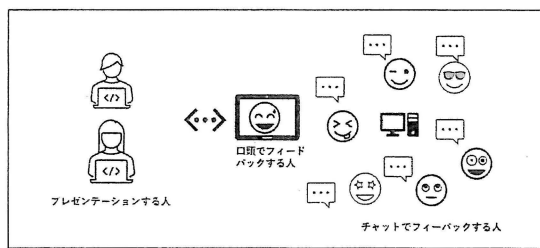




図1 授業スケジュール

本日のスケジュール  

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
10:40~	本日の学習目標 授業スケジュール *指示後、各グループに分かれる			
10:45~	★プレゼンテーション	★プレゼンテーション	◆レビュークイズ	◆レビュークイズ
11:00~	◆レビュークイズ	◆レビュークイズ	★プレゼンテーション	★プレゼンテーション
11:15~	全員、「一般」に戻る 授業再開			

図2 プレゼンテーションとフィードバックのイメージ

フィードバックは縦の列(7人で)当日の発表者に対して1回だけ行うこと
口頭フィードバックは第2回目からは前回プレゼンをした人が行う。
他のメンバーはチャットに記載する

	プレゼンの日	学籍番号		
第1回発表者	*月*日	1	8	15
	*月*日	2	9	16
	*月*日	3	10	17
	*月*日	4	11	18
	*月*日	5	12	19
	*月*日	6	13	20
第1回口頭フィードバック	*月*日	7	14	21


チャットでフィードバック 

図3 プレゼンテーションと役割